

CSR theme

For the society in harmony with the environment

# 環境と共生した社会づくり

私たちは、自らの環境負荷の抑制に努めるとともに、ICTの提供を通じて、地球規模での環境問題の解決に努め、環境と共生した社会づくりに貢献します。

特集

## SDGs実現に向けた 地域食品資源循環ソリューション



※ 各記事に関連するおもなSDGsのアイコンを表示しています

食品ロスの削減や食品リサイクル推進が世界的な課題となっている中、NTTフィールドテクノは2019年4月より「楽しい株式会社」と提携して食品リサイクル事業を開始しました。

食品残渣発酵分解装置に取り付けたIoTセンサーで、堆肥等に再利用可能な発酵分解床の製造工程と回収に最適な時間を管理し、できた分解床を楽しい株式会社のリサイクルセンターに運搬します。収集した製造過程のデータや回収・運搬経路をAIが収集・分析し、移動効率の最適化を可能にします。

堆肥は楽しい株式会社が契約した農家や農協、農業法人に販売します。また、データベースに登録した農家の野菜を小売店・飲食店といった食品関連事業者へ販売する流通仲介も行う等、生産者にも消費者にもメリットがある食品循環資源のリサイクルループを構築します。

今後は、IoT技術とクラウドを連携させる等、NTT西日本グループの情報通信技術を活用して、食品リサイクル事業の効率的な運用を確立することで、リサイクルに努める食品事業者と食品循環資源を活用する農家をつなぐしくみづくりに取組みます。同時に、同様のしくみを全国に展開することで地産地消の拡大と、食品リサイクルがあたり前になる世の中の実現をめざします。

### 食品リサイクル提供フロー



特集

## 宗像市さま・宗像大社さまと 「持続可能な社会の実現と社会課題の解決」をテーマに対談



豊かな自然の恩恵を受けた沿海部と山間部を合わせ持ち、古くからその自然を守り継いでいる福岡県宗像市。2017年には『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群』がユネスコ世界文化遺産に登録されました。このまちでは“海の鎮守の森”という基本コンセプトを掲げる「宗像国際環境100人会議」の開催等、「世界遺産のあるまちの使命」として地球規模の環境問題に対応し、持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

2019年10月8日には、「持続可能な社会の実現と社会課題の解決」をテーマに伊豆美沙子市長、葦津敬之の宮司と、NTT西日本の小澤正憲九州事業本部長が意見を交わしました。



宗像大社 (辺津宮)



宗像市 伊豆 美沙子 市長

世界文化遺産への登録は、国際社会が一丸で海洋環境問題へ対応するという意思の表れととらえています。宗像市は世界遺産のあるまちとして持続可能な社会の実現に貢献し、「海を守る」使命を帯びたのだと背筋が伸びる思いです。ICT等、さまざまな力をお借りして地球のためにできることを真剣に考え、自然豊かな宗像を次世代に受け継いでいきたいと思います。



宗像大社 葦津 敬之 宮司

神職と同時に、ライフワークとして自然環境問題にも長年取り組んでおり、100人会議の立ち上げにも携わりました。技術革新はどのような心持ちで取り組むかが重要です。日本は森羅万象、万物に神が宿ると考える多神教の国であるという価値観を胸にイノベーションに取り組むことができれば、環境にやさしい技術が生まれていくのではないのでしょうか。



NTT西日本 九州事業本部 小澤 正憲 本部長

皆さんのお話をうかがい、100人会議のテーマにもなった「常若\* (とこわか)」の精神を忘れず、地域社会とともに環境問題に取り組むという使命感が一層強まりました。NTT西日本グループでは、2019年に温室効果ガス排出削減に長期目標を置く等の見直しを行い、より一層社会全体の環境負荷低減への貢献に尽力していきます。

※常若：衰えることなく、常に若々しい様子

## NTT西日本グループ環境宣言

NTT西日本グループは、「NTT西日本グループ環境宣言」をまとめました。この宣言の核となるのは、「人と地球が調和する未来 私たちは事業を通じて 環境課題の解決へ」というテーマです。ステークホルダーの皆さまとともに創っていく地球環境の未来像と、私たちが地球環境をはじめとする中長期的課題の解決に向け、事業活動を通じて貢献していく決意を描きました。

「人と地球が調和する未来」、そこでは世界中のあらゆるものがつながる持続可能な社会が実現されていると考えています。そのような未来の実現に向けて、私たちNTT西日本グループは日々の事業活動において、地球環境をはじめとする社会課題の解決をめざして取り組んでいきます。

人と地球が調和する未来について、私たちはめざすべき3つの姿として描き、「社会が脱炭素化している未来へ」「自然と共生している未来へ」「資源が循環している未来へ」としました。NTT西日本グループは、この3つの未来の姿の実現に向け、ICTサービスやソリューションの提供等により、環境貢献の最先端をめざしてさまざまな取組みに注力します。

### NTT西日本グループ環境宣言



## NTT西日本グループ環境目標

顕在化するさまざまな環境課題、お客さまやサプライチェーン、地域の皆さまから、NTT西日本グループに求められるであろう重点課題の絞り込みを行いました。

その結果、社会全体の重要な環境課題のうち、社会からNTT西日本グループに事業活動上で対応が求められる特に重要な環境課題として「気候変動」「資源循環」「生物

多様性」を特定しました。NTT西日本グループは、環境宣言で掲げた「社会が脱炭素化している未来へ」「自然と共生している未来へ」「資源が循環している未来へ」の実現に向けた道しるべとして、3つの環境課題への対応を「環境目標」として設定しました。これらの目標は、少なくとも5年ごとに見直しを行います。

### 社会が脱炭素化している未来へ

- NTT西日本グループ自身による温室効果ガス排出を2010年度と比較し、2050年に半減をめざします。また、サプライチェーン全体の温室効果ガス排出削減に向けた取組みを推進します。
- ICTにより地球環境の負荷低減に貢献するために、環境にやさしいICTソリューションの開発と提供を推進します。
- 気候変動への適応に貢献するため、あらゆる活動を通じた取組みを積極的に推進します。また、ステークホルダーの皆さまとも協働していきます。

### 資源が循環している未来へ

- NTT西日本グループが排出する廃棄物の最終処分率について、ゼロエミッション\*を維持します。

### 自然と共生している未来へ

- 生物多様性を保全するため、あらゆる活動を通じた取組みを積極的に推進します。また、ステークホルダーの皆さまとも協働していきます。

※ NTTグループでは、最終処分率1%以下をゼロエミッションとして定義しています

## 環境経営の推進

### 基本的な考え方

NTT西日本グループは、社会全体の環境負荷低減に貢献する企業をめざし、ICTを利活用した環境負荷低減や環境問題の解決に取組み、地球規模での環境問題の解決に努めます。

## 環境マネジメント推進体制



NTT西日本グループでは、「環境保護活動を推進することは社会とともにある企業の社会的責任である」という考えのもと、「NTT西日本グループ地球環境憲章」を制定し、地球環境の保全に努めています。この憲章に従い、さまざまな環境貢献指標の管理方法をISO14001を参考に「実行管理プログラム」として編成し、数値による実行度の管理を行っています。また、各組織における環境法規制の遵守状態、実行管理プログラムの実施状況等、環境保全対象の定着度を各組織が自ら検証することを目的として、環境セルフチェックを年1回実施しています。なお、この環境セルフチェックを客観的な見地から実施するため、主管部による環境監査を実施しています。

NTT西日本グループ地球環境憲章  
[https://www.ntt-west.co.jp/kankyo/annual\\_report/2016/about/4-1.html](https://www.ntt-west.co.jp/kankyo/annual_report/2016/about/4-1.html)

## グリーンNTT西日本戦略



NTT西日本グループは、「グリーンNTT西日本戦略」を2012年6月に策定しています。

環境ブランドデザインの2018年度の達成状況は次のとおりです。2019年度以降は新たな「NTT西日グループ環境目標」の達成に向けて進みます。

### ■グリーンNTT西日本戦略

- **環境ブランドデザインの達成**  
自らの環境負荷を低減することで社会に貢献します。
- **環境・エネルギー事業の展開**  
ICT利活用による事業活動の展開で環境に貢献します。
- **生物多様性保全活動の推進**  
社員一人ひとりが、地域の生物多様性保全へ貢献します。

### ■環境ブランドデザインの達成状況および総括

○=達成 △=2020年度目標に向け順調に推移しながら2018年度では未達

#### 気候変動対策 ー温室効果ガス排出量削減ー

##### 2020年度目標

2010年度と比較し、自責電力使用量を**40%以上削減**  
 2010年度と比較し、総電力使用量を**20%以上削減**

2018年度実績  
 自責電力使用量：**11.66**億kWh  
 (2010年度と比較して**25.3%**削減)  
 総電力使用量：**17.3**億kWh  
 (2010年度と比較して**18%**削減) 達成状況 △

#### 環境負荷の低減 ー紙使用量削減ー

##### 2020年度目標

2008年度と比較し、紙総使用量を**40%以上削減**  
 (2020年度に2.39万tとする)

一人あたりの事務用紙使用量は**50%以上削減**

2018年度実績  
 紙総使用量：**1.20**万t  
 (2008年度と比較して**70%**削減)  
 一人あたりの事務用紙使用量：**341**枚  
 (2008年度と比較して**58.7%**削減) 達成状況 ○

#### 廃棄物最終処分率削減

##### 2020年度目標

全廃棄物合計の最終処分率を**1.0%**  
 撤去した通信設備廃棄物については、最終処分率**0.1%**を維持

2018年度実績  
 全廃棄物最終処分率：**0.63%**  
 撤去した通信設備の最終処分率：**0.01%** 達成状況 ○

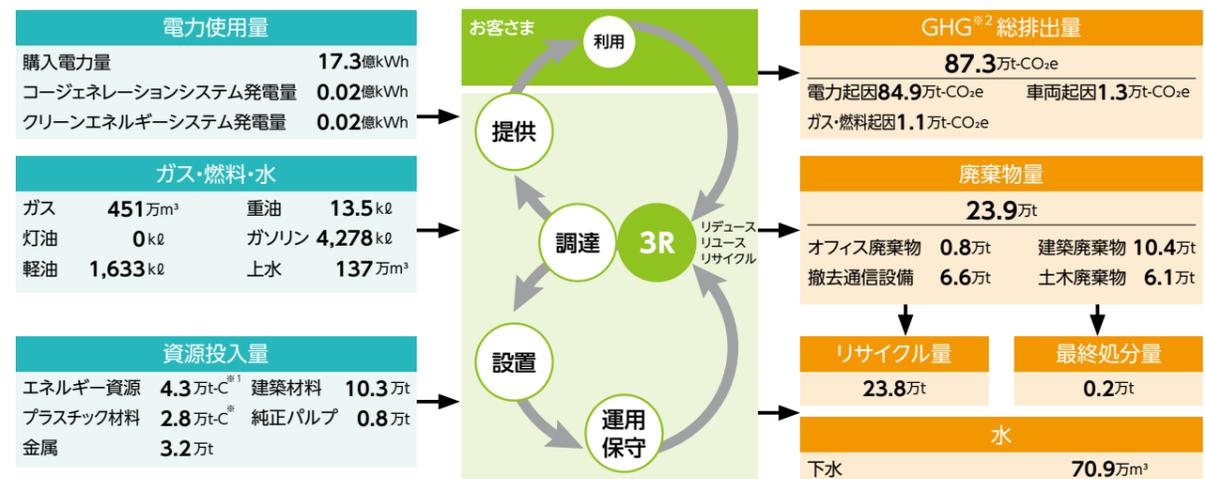
### マテリアルフロー



西日本全域で事業を展開するNTT西日本グループは、事業規模も大きく、それだけに相当の環境負荷を与えています。

そのうえで、マテリアルフロー(次ページの図参照)を定期的かつ定量的に把握し振り返ることで、継続的な環境負荷の低減に役立てています。

### ■マテリアルフロー



※1 t-C: 炭素換算の重量(t)

※2 Green House Gasの略。温室効果ガス

### CSR重点活動項目

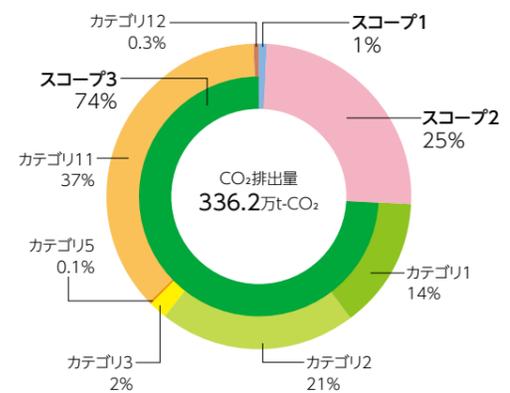
## 脱炭素社会の推進

### サプライチェーンのCO<sub>2</sub>排出量



NTT西日本グループは年間約17億kWhもの電力を使用し、それに伴い大量のCO<sub>2</sub>を排出しています。電力エネルギーを大量使用する企業の責務として、継続的に電力使用量の効率化に取り組んでいます。徹底的な省エネルギーによって増大し続ける通信設備の電力使用量の増加抑制に努めるとともに、自社サービスを通じて社会のCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献し続けます。

### ■サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量



※ スコープ：GHGプロトコルという世界的に認められたGHG算定のガイドラインの中に定義されている排出量の呼び方。スコープ1：事業者が所有または管理するものから直接排出される温室効果ガスのこと。スコープ2：他社から供給された電気、蒸気、熱の使用に伴い発生する温室効果ガスのこと。スコープ3：スコープ1、2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)。カテゴリ1：購入した製品・サービス(お客さまに販売している機器、サービスを対象に、数量・購入金額から算定)。カテゴリ2：資本財(通信設備等の設備を対象に、設備投資費用から算定)。カテゴリ3：スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動(エネルギー種別ごとの年間消費量から算定)。カテゴリ5：事業から出る廃棄物(種別ごとの廃棄物量から算定)。カテゴリ11：販売した製品の使用(お客さまに利用いただいている通信サービスや機器を対象に、サービス契約数、機器の数量・金額から算定)。カテゴリ12：販売した製品の廃棄(お客さまに利用いただいている通信機器を対象に、サービス契約数、機器の数量・金額から算定)。

### 環境・エネルギー事業の展開 「ソリューション環境ラベル」



NTTグループでは、ICTサービスの導入によって削減できるCO<sub>2</sub>排出量が導入前比で15%を上回るものを環境にやさしいサービスと認定し、NTT西日本グループでは延べ8件(2018年度末時点)に「ソリューション環境ラベル」を付与しています。今後もこの取組みを進めることで、ICTサービスを通じた環境負荷低減を積極的に進めていきます。



### SmartConnect Cloud Platform(専用タイプ)

「SmartConnect Cloud Platform(専用タイプ)」は、VMware仮想化基盤で構成された、オンプレミスからのクラウド移行に最適な高性能・高信頼の専用型クラウドプラットフォームサービスです。お客さまがオンプレミスで運用していたシステムをクラウド化してデータセンターで一括管理することによって、お客さま保有のシステムや保守運用稼働を削減します。

5企業、サーバ154台分の保守・運用を含めた利用を行うにあたり、「SmartConnect Cloud Platform(専用タイプ)」(次ページの図参照)を利用した場合と、従来手段(オンプレミス)で実施した場合のCO<sub>2</sub>排出量を比較すると、1年間あたり67%のCO<sub>2</sub>排出量の削減となります。

■ SmartConnect Cloud Platform(専用タイプ)サービスの評価モデル

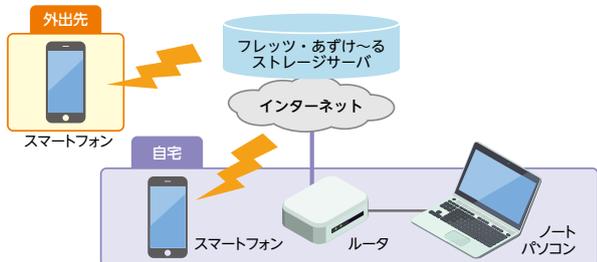


フレッツ・あずけ～る

「フレッツ・あずけ～る」は、フレッツ光をご契約のお客さまがお持ちの写真や動画等のデータを、インターネット経由でオンラインストレージに格納し、共有・閲覧等を可能とするサービスです。パソコン、タブレット端末、スマートフォンの他、光BOX+等、マルチデバイス対応で、利用シーンや場所を選ばず、簡単にデータを共有できます。

1世帯が5GBのデータを1年間保管、管理を行うにあたり、「フレッツ・あずけ～る」を利用した場合と、従来の手段で保管、管理した場合のCO<sub>2</sub>排出量を比較すると、1年間あたり93%のCO<sub>2</sub>排出量の削減となります。

■ フレッツ・あずけ～るサービスの評価モデル



CSR重点活動項目

資源循環型社会の推進

廃棄物最終処分率・環境負荷の低減



NTT西日本グループは環境経営の推進に際し、廃棄物の最終処分率についてゼロエミッションの維持を掲げています。ペーパーレス会議の徹底や業務のシステム化によって紙使用量の削減に努めている他、お客さまのご理解・ご協力を得ながら請求書を有料化することで紙の使用を抑制しています。

CSR重点活動項目

生物多様性の保全

「みどりいっぱいプロジェクト」の推進



「みどりいっぱいプロジェクト」は地域の自然的・社会的条件に応じた生物多様性の保全のため、自治体・NPO等と連携しながら展開する生物多様性保全活動です。西日本エリア全30府県のグループ社員・その家族・退職者等1万人を目標に植樹等の活動を行っています。

ウェブサイトで多くの活動を報告しています!

地球環境保護活動 みどりいっぱい活動報告  
<https://www.ntt-west.co.jp/kankyo/create/>

「NTT光の森」交流活動

NTT西日本 高知グループの社員と家族、退職者ら総勢47名は2018年11月、「NTT光の森」で間伐作業と子ども向け木工教室を行いました。光の森は2008年に高知県・高知市・高知市森林組合と締結した「協働の森パートナーズ協定」に基づく協定森林で、本活動に10年間で延べ776名が参加しました。

今後も森林環境保全に尽力し、将来にわたり持続可能な森林経営のモデルとなる森づくりをめざします。



間伐作業の様子

釣り大会で外来魚の駆除

京阪神の貴重な水源である琵琶湖に生息するブラックバス等の繁殖抑制を目的にNTT西日本 滋賀グループは2018年10月、「外来魚駆除釣り大会」を開催し、参加した約30名で計123匹を釣り上げました。

琵琶湖は毎年6万羽を超える渡り鳥が越冬に訪れると同時に、61種の固有種(うち61%が絶滅危惧種)の生息地でもあります。琵琶湖を守り、湖から受ける多様な恩恵を次の世代に受け継いでいくため、引き続き周辺の生物多様性保全に取り組んでいきます。



駆除を兼ねた外来魚の釣り大会